

実施・達成状況結果報告書及び評価書

平成27年3月3日

ワーキンググループリーダー 森田 廣

実施年度	平成26年度
ワーキンググループ名	地域・産業 連携WG
グループの目的	中・四国地域を中心に、事業参加大学や産業界、自治体等との連携を新たに創り出し、他のWGで実践している、ものづくり教育やキャリア教育に展開する。
グループの目標	構築した連携基盤を元に、活動のさらなる推進と定着、地域・産業界への展開を行う。

[達成状況評価]

目標項目	目標達成状況	自己評価
学内諸活動との情報交換・連携	WGリーダー会議や日常活動を通じて、他WGや学内実活動組織との情報交換、課題把握や活動成果の評価・共有を行った。	十分に達成されている
他大学、地域との情報交換・連携	岡山理科大、岡山県立大との連携会議や交流、合同シンポジウム、情報交換を通じて、情報の共有化や課題の把握・解決の議論を行った。	十分に達成されている
地域・産学連携活動の提案と基盤の構築	新設した地域連携センターと同期して活動中であり、地元企業や自治体、教育現場との意見交換や交流の場、研究公開の機会を設けて課題把握と解決法検討を行った。今後、実活動の深耕による成果を目指す。	十分に達成されている
大学カリキュラムへの反映	全学的なカリキュラム検討会をはじめて催すと共に、教育開発センターを設置し、その中で地域教育・人材育成教育について議論した。今後、本活動から導き出された行動基準に基づくカリキュラム改革実務を進める。	ほぼ達成している
次年度以降への活動継続布石	学内に地域連携センターと教育開発センターを組織し、そこでのミッションと位置付け、継続的に事業内容を継承していく。	十分に達成されている

※「目標項目」は「グループの目標」に基づいてさらに具体的な項目を策定する。

【推進本部会議評価】

評価	評価コメント
概ね趣旨を反映した事業遂行が図られた	大学間の連携において、教職員および学生の交流の更なる充実が図られた。このことがGP終了後の連携協定締結となって表れている。地域産業界との連携では、「地域連携センター」を立ち上げ、引き続き活動を行っている。

推進本部会議委員長

酒井 吉雄

【評価委員会最終評価】

評価	評価の理由
適合している	他大学や産業界、自治体との連携基盤構築を新たに創り出し、一定の成果を上げている。学内に地域連携センターと教育開発センターを組織して、広報活動と地域・地元産業界との連携を継続的に推し進めるといふ成果を打ち出している。

評価委員会委員長

稲垣 詠一